

平成24年度「新入生の生活に関する調査」

学生支援センターでは、文部科学省特別経費プロジェクト「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」の一環として、平成24年度新入学生（学部）とその保護者を対象に「新入生の生活に関する調査」を実施しました。

調査内容は、出身高校、家族、志望動機、進路選択、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（以上は新入生自身への調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（以上は新入生の保護者への調査）など多岐にわたるもので、いずれも、大学生生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としています。

平成24年度入学者のうち、新入生自身への調査では82.7%、新入生の保護者への調査では82.4%の方々から、調査の返送および分析許可を得ることができました。

本日から5回にわたり、「学生支援センター*Research Report*」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介していきます。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます（<http://hdl.handle.net/10083/52311>）

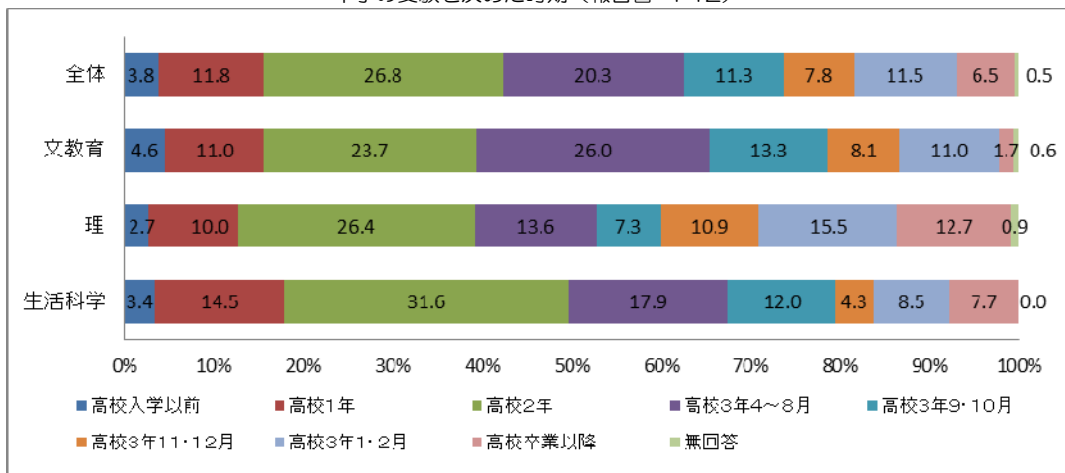
第1回

「お茶の水女子大学に、なぜ、どのように入学したのか」

1. 早期からの受験校決定

本学の新生は、いつ頃から、本学の受験を決めたのでしょうか。

本学の受験を決めた時期（報告書 P12）



全体で見ると、「高校2年」が最も多く、次いで「高校3年4~8月」が多いようです。Benesse 教育研究開発センター（2009）による「大学生の学習・生活実態調査」では、大学進学を意識し始めた時期は「高校2年生の頃」が最も多く、それに次いで「高校3年生の頃」が多くみられます。本学の新生は、その時期にはすでに本学の受験を決めていた人が多く、全国水準よりも大学進学や受験校を選択・決定した時期が早いようです。

ただし、学部による差異もみられました。理学部では、「高校3年1・2月」が15%以上におよび、センター試験の結果をみてから、本学の受験を決めた人も多いようですが、生活科学部では「高校1年」「高校2年」といった段階から本学の受験を決めていた人がおよそ半数に及んでいます。

なお、「受験時に本学が第一志望であったか否か」について尋ねたところ（報告書 P12～13）、全体の9割弱が、受験時には本学が第一志望だったと回答しています。ただし、理学部では75%程度にとどまっています。

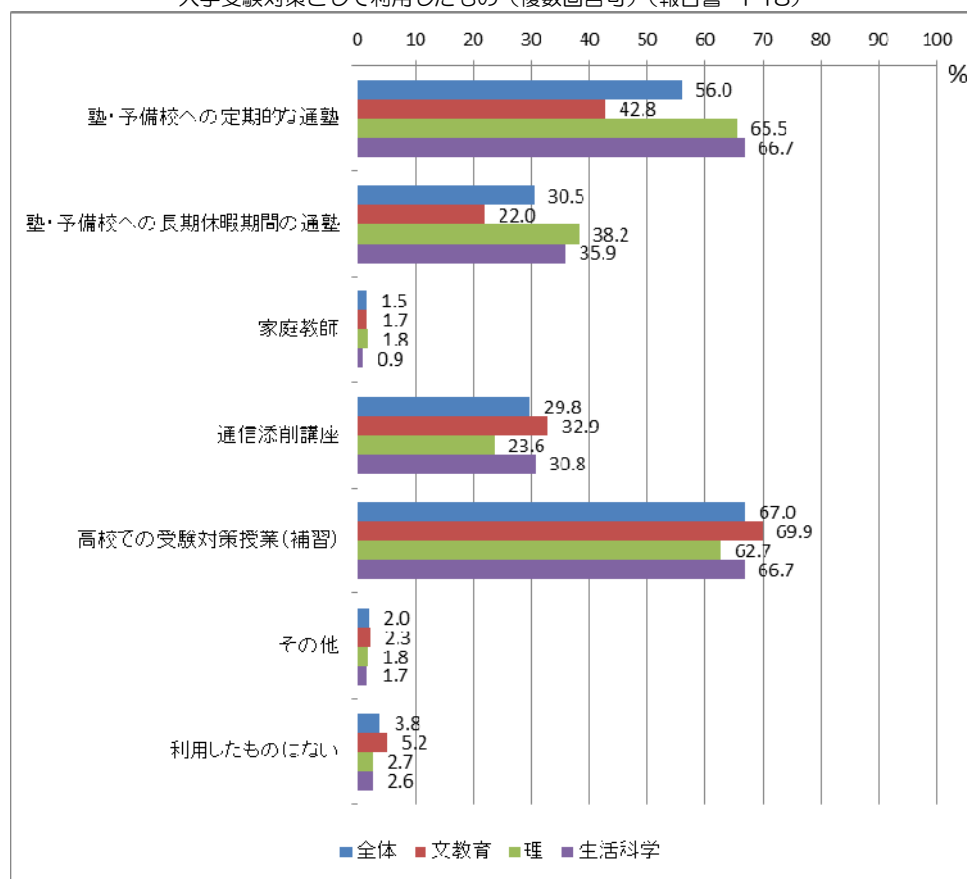
2. 「高校の受験対策授業」「塾・予備校への通塾」による受験対策が目立つ

では、本学の新入生は、どのような対策をして、受験にのぞいたのでしょうか。

大学受験の対策として利用したものについて尋ねたところ、「高校での受験対策授業(補習)」が最も多く、いずれの学部でも6割以上が利用していたようです。

それに次いで、「塾・予備校への定期的な通塾」「塾・予備校への長期休暇期間の通塾」「通信添削講座」が、全体でみると多くみられます。ただし、入試形態の違いもあってか、学部による差異もみられました。例えば文教育学部では、「塾・予備校への定期的な通塾」「塾・予備校への長期休暇期間の通塾」が他学部より明らかに低く、その一方で、「利用したものはない」は他学部より高いようです。

大学受験対策として利用したもの（複数回答可）（報告書 P18）



3. 明治大学、早稲田大学、立教大学などにも合格

では、本学の新入生は、どのような大学・学部へ合格し、本学への入学を決めたのでしょうか。

本学以外に合格した大学について3大学まで尋ね、延べ人数の上位10校を示した結果、全体でみると、明治大学が最も多く、早稲田大学、立教大学がそれに続いています。

学部別にみると、文教育学部では、早稲田大学が最も多く、津田塾大学・立教大学が続いています。理学部では、東京理科大学が目立って多く、続いて、明治大学、上智大学・立教大学の順となっています。生活科学では、明治大学が最も多く、日本女子大学、立教大学が続いています。

本学以外に合格した大学（3大学まで回答可）（報告書 P11）

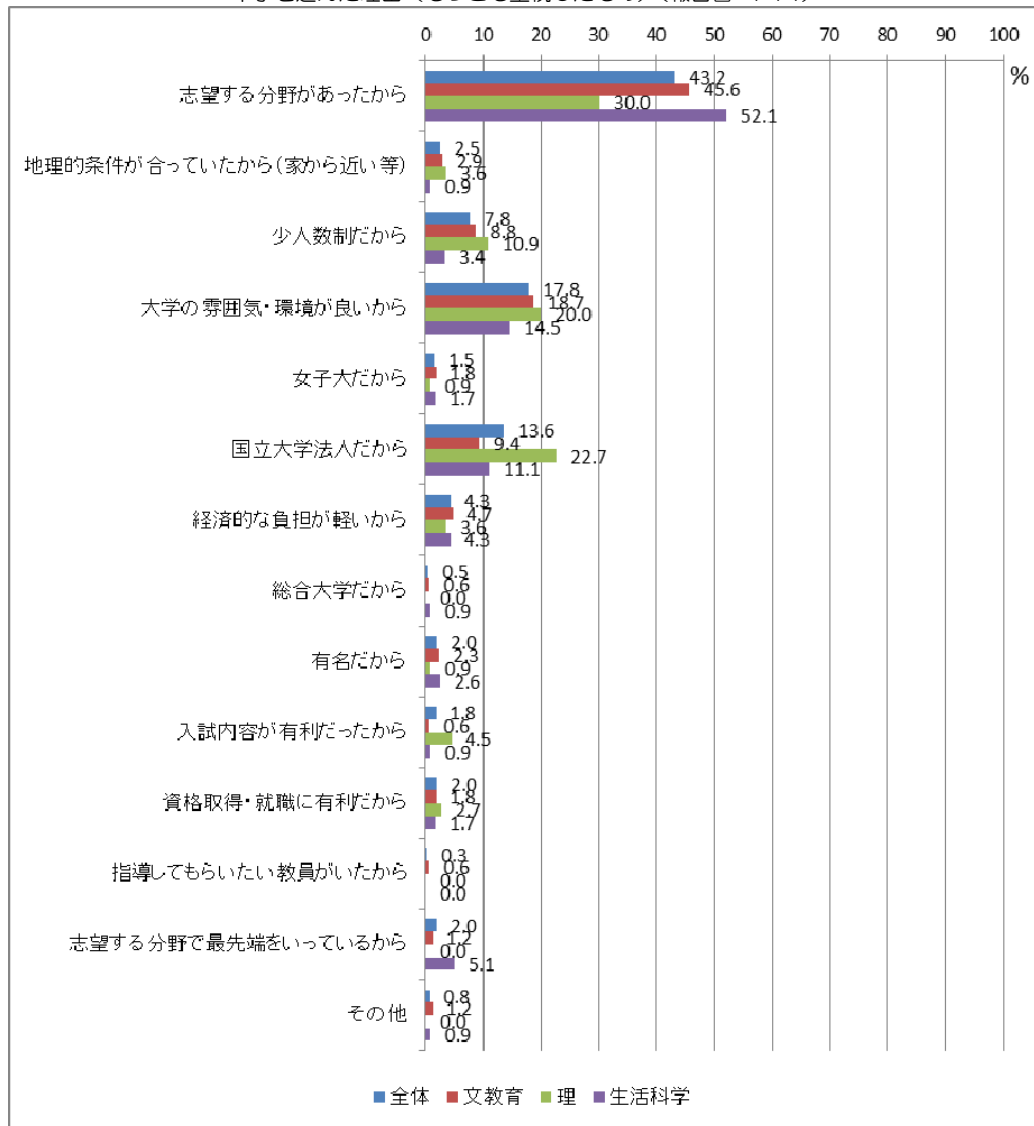
（人）

	全体	文教育学部	理学部	生活科学部
1	明治大学 (78)	早稲田大学 (41)	東京理科大学 (44)	明治大学 (34)
2	早稲田大学 (73)	津田塾大学 (35)	明治大学 (15)	日本女子大学 (31)
3	立教大学 (71)	立教大学 (35)	上智大学 (14)	立教大学 (22)
4	東京理科大学 (51)	明治大学 (29)	立教大学 (14)	早稲田大学 (21)
5	津田塾大学 (50)	上智大学 (16)	早稲田大学 (11)	津田塾大学 (10)
6	日本女子大学 (42)	東京女子大学 (13)	中央大学 (8)	青山学院大学 (9)
7	上智大学 (37)	立命館大学 (10)	日本女子大学 (7)	法政大学 (9)
8	青山学院大学 (23)	慶應義塾大学 (9)	青山学院大学 (6)	東京農業大学 (8)
9	中央大学 (23)	中央大学 (9)	慶應義塾大学 (5)	上智大学 (7)
10	法政大学 (20)	青山学院大学 (8)	津田塾大学 (5)	中央大学 (6)
			法政大学 (5)	

4. 「志望する分野」「大学の雰囲気・環境」「国立大学」が主な選択理由

では、本学の新入生は、なぜ本学を選んだのでしょうか。

本学を選んだ理由（もっとも重視したもの）（報告書 P14）



自分の学力や入試の難易度以外で*本学を選んだ理由として、最も重視したものについて尋ねたところ、「志望する分野があったから」がいずれの学部でも最も多くみられ、全体のおよそ半数に達しています。ただし、学部による差異も大きく、理学部では3割にとどまっています。

それに次いで、「大学の雰囲気・環境が良いから」「国立大学法人だから」が、全体でみると多くみられました。「国立大学法人だから」は学部による差異がみられ、理学部では2割を超えています。

※「自分の学力や入試の難易度以外で」としたのは、教育開発センターによる「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」と同様の条件にすることで、在学生との比較を行うためです。

5. 高校卒業後、すぐに本学へ入学

さいごに、本学の新生は、高校卒業後にどのような経験をして、本学に入学したのかについてみていきましょう。

高校卒業から調査時期（大学入学前年度3月）までに経験したことについて尋ねたところ、「ほかの高等教育機関に入学した」はいずれの学部でも1%にも満たない経験率であり、「フルタイムで働いた」「海外留学した」は全体でみても0%という結果でした。

その一方で、「浪人した」は、全体の14.8%に及び、生活科学部では2割を超えています。

高校卒業から現在までの間に経験したこと（複数回答可）（報告書 P18） (%)

	他の高等教育機関に入学した	フルタイムで働いた	浪人した	海外留学をした	この中にはない	無回答
全体	0.5	0.0	14.8	0.0	76.3	8.8
文教育	0.6	0.0	9.2	0.0	83.8	6.4
理	0.9	0.0	15.5	0.0	76.4	8.2
生活科学	0.0	0.0	22.2	0.0	65.0	12.8

【参考とした調査・報告書】

- ・ Benesse 教育研究開発センター（2009）「大学生の学習・生活実態調査報告書」

次回は、
「お茶の水女子大学に
入学後の学生生活」
について、ご報告します。

